

白川の花歳時記 11月(後期)



⑬ 茨の実(9-11-16)

「近道の いつの間に失せ
茨の実」湯川 雅



⑭ つわぶき(12-11-15)

「一生を 辞書編纂や
石菫の花」五所平之助



④ 八つ手(4-11-11)

「たくましく 八つ手は
花に成りにけり」尚 白



⑤ 竜胆・りんどう(5-11-12)

「野の色に 紫加え
濃りんどう」稲畑汀子



⑥ 白菊(12-11-12)

「いつせいに 今朝の食卓
菊の卓」星野立子



⑦ 梔子の実(5-11-12)

「梔子の 実のみ華ぐ
坊の垣」貞弘 衛



⑧ 千 振(5-11-13)

「せんぶりの 枯れ切らぬ花
逆さ干し」上野さち子



⑨ クコの実(6-11-10)

「けふありて 忘れ去るべき
枸杞の実か」千代田葛彦



⑩ 檀まゆみの実(4-11-16)

「近づきて 花にはあらで
真弓の実」五十嵐八重子



⑪ 千 両(5-11-16)

「千両の 一粒づつに
弥陀の雨」篠原二歩



⑫ 野葡萄(4-11-16)

「野葡萄の 色ちりばめて
熟れそめし」近江佐代子